



夕立ち前の池の里／三井恵美子・画



伊東西

会長 飯島崇宏 副会長 増田真啓
幹事 小川嘉洋

例会場 伊東市竹の内1-3-16 暖香園ポウル2F
例会日 毎週(金曜日) TEL 0557-37-1512
事務所 伊東市竹の内1-3-16 暖香園ポウル内
TEL・FAX 0557-37-0036
ホームページ <http://itowest.rcy.jp>

出席報告

	会員数	出席規定 該当者	出席者	欠席者	M. U	出席率
本日	47	43	29	14		67.44%

SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう、みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度 R.I. 会長 シェカール・メータ
第2620地区ガバナー 小林 聡一郎

2022.4.1 第2042回例会 No.2042

会長挨拶

皆様こんにちは、本日はサザンクロスでのお花見例会であります。桜の満開とお花見例会をぴったりと合わせるの難しいのですが、今年は運よく満開の桜の中で開催出来て嬉しいです。桜の話は、できることなら専門家の立木さんから聞きたいと思っている方は多いでしょうが、それは楽しみに取っておきたいと思えます。さて、伊東の桜の名所と言えば、思い浮かべるのは伊豆高原の桜並木でしょうか、うちの家の近くであれば、南伊東駅でみごと大きな桜がありました。残念ながら数年前にすべて切られてしまいました。この桜を楽しみにしていた人々は、悲しんだり、怒ったりでガッカリしておりました。しかしながら、競輪場から赤湊橋にかけての桜もなかなか素晴らしい。満開の大きな桜の木、そして何本も連なっていると人の気持ちをなごませる魅力があります。それから、ソメイヨシノ以外にもさくらの里には、伊豆や伊東に関係した桜がいくつもあります。早咲きの河津桜や熱海桜、伊東桜に城ヶ崎桜、そして伊東ロータリークラブの元メンバーの萩原さんが発見した伊東小室桜の原木が、ここサザンクロスのすぐ近くにあるのは素晴らしいことです。今日は少しの



間桜の花をのんびりと楽しんでいただきたいと思います。

本日の欠席者

安西光枝君 遠藤英夫君 堀野泰司君 市川正樹君
稲木孝彦君 牧野隆広君 増田真啓君 松屋永久君
野村玲三君 佐藤活也君 山本佳洋君 稲葉憲一君
大胡充利君 沼田 渉君

幹事報告

- ウクライナ災害救援基金への寄付に多数のご協力をいただきましてありがとうございました。
- 地区大会のご案内
5月22日(日)12:00
山梨県立県民文化ホール



委員会報告

- 地区委員会委任状贈呈式が行われ、石井幸弘君が会員増強・維持委員会副委員長、稲葉雅之君が米山奨学委員会委員として委嘱されました。



四つのテスト
言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

○親睦委員会 クラブ会員旅行のご案内

日 時 令和4年4月22日(金)

7:00 例会点鐘 7:30 旅行出発

場 所 山中湖周辺(水族館・浅間神社・ホテル昼食・水陸両用バス乗車)

参加費 会員 4,000円

パートナー・成人家族 1,000円

4月8日までに事務局に出欠の返事を下さい。

○チャリティコンサート 4/15

スマイルボックス

飯島崇宏君 今日、サザンクロスの満開の桜を楽しみたいと思います。

お花見例会



桜や季節などに因んだうんちく

今はお花見と言えば桜ですが、昔々の奈良時代は梅だったようです。最古の和歌集「万葉集」で読まれた歌の数でのこととなりますが、梅は桜より多かったそうで、当時のお花見は桜より香りが高い中国から伝来した梅を見ていたことから、お花見と言えば梅だったそうです。

しかし、平安時代に作られた「古今和歌集」では梅より桜の歌が多く作られています。これは何故かというのは894年の遣唐使の廃止が大きく影

響していると考えられていて、中国文化の影響が少なくなったことで日本独自の文化が発展しはじめ、お花見も梅から桜に変わっていったのではと考えられています。

ただし、当時の桜はソメイヨシノではありません。ソメイヨシノは江戸時代末期に開発された桜なので平安時代の桜は別物です。そのソメイヨシノ。木のクローンという話は立木さんが以前にされていたので割愛します。

続いて今日はお花見例会なので、花見団子についてのうんちく

花見団子の3色の意味をご存じの方は？

- ・ピンクは桜の花で春
- ・白は雪の色で冬
- ・緑は新緑の色で夏

を表しています。

この中に季節で考えると秋がありません。何ででしょうか？これは「秋がない」ということで「飽きがこない」つまり、食べ「飽きない」という言葉遊びが入っているんです。花見団子だけにうまい!!って言うところでしょうか(笑)

最後に「桜の開花」の観測を気象庁が行っていますが、これ「生物季節観測」と呼ばれるものの1つです。これについてのお話で締めようと思います。

この「生物季節観測」って去年の1月から大きく変わりました。それまでは全国の気象台・測候所58地点で植物34種目、動物23種目を対象に、開花や初鳴きなどを観測していたそうです。これが去年1月からは植物6種目9現象の観測だけになったとのこと。どうしてそうなったかということ、測候所が自動観測システム化で機械化、無人化が進み165カ所あったものが現在帯広と名瀬(ナゼ)の2カ所になったことと、近年は気象台・測候所周辺の生物の生体環境が変化し、「季節の遅れや進み、気候の違いや変化」を的確に捉えることが難しくなってきたからだといいます。というのは、植物は適切な場所に標本木を確保することが難しくなり、動物は対象を見つけることが困難になったからだということです。桜の開花と桜の満開についても去年1月に観測指針が変わったのですが、別の機会にお話し出来ればと思います。うんちくを垂れましたが、これからは少しの時間 今が満開の桜を楽しんで下さい。

(担当 梶原幹人)

プログラム予定

4月22日 早朝例会・会員旅行 点鐘7:00 伊豆高原ビール
4月29日 休会(昭和の日)